

県新人研修会の審判について

1 研修会として

生徒の研修会としてだけでなく、顧問・指導者の大会運営や審判に関し、研修会としてのねらいは継続する。チームとして試合を行うだけでなく、審判にもかかわり、ルールや審判法を研修していただく。審判の研修方法は、資料を基に実技(試合)を行っていただく。各会場 1~2名のコントローラーを派遣し、ミーティング等で助言指導を受け、研修とする。

2 審判の行い方

【ファーストレフェリー(主審)・セカンドレフェリー(副審)】

- ・通常のホイッスルを使用する。長管・短管の2種類を用意する。
- ・腕時計を持参し、プロトコール以降の計時はすべて副審が自身の腕時計で行う。
- ・試合前後にスコアラーズテーブル付近で、生徒役員とレフェリーミーティングを行う。

【スコアラー・アシスタントスコアラー】

- ・各自が用意した青ペンを使用する。監督、キャプテンサインはスコアラーのペンを貸与して行う。

【ラインジャッジ】【点示】

- ・フラッグは、参加校が持参したものを使用する。
- ・点示の椅子(得点板の椅子)を用意し、担当生徒は点数をめくる時のみ立って行う。
※ いわゆるサーブ権がある方の生徒が立つ必要はない。

3 審判の割り当てについて

1日目については勝敗に関係なく、すべてのチームに一度は審判を担当する。

下記の割り当ては、主審、副審、生徒役員共通で特に生徒役員の役割について顧問間で確認し、役割や人数の認識に相違がないようにすること。生徒役員必要数はラインジャッジ4名、点示2名、スコアラー1名、アシスタントスコアラー2名の計9名とする。

第1試合:2試合目の両チーム

第2試合:1試合目の両チーム ※1試合目に勝ったチームも審判、生徒役員を行う。

第3試合:1試合目、2試合目の負けチーム

第4試合:両コート3試合目の負けチーム

1日目については、各会場に1~2名をコントローラーとして派遣する。各試合の前後で助言・指導を受けて研修とする。主審・副審は参加チームで運営する。

コントローラーの人数によっては、1日目の4試合目をコントローラーが担当する可能性もある。

2日目については、生徒役員は地元役員生徒で行う。主審・副審は全試合、派遣審判員で行う。